

## Culture

## 平和祈るオペラ 今こそ意義

現代風にリメイクされた。今回は、初演当時にこだわりの「通常のオペラ」セリアは全く違うことを示したい」と意気込む。

19日と20日回、札幌市教育文化会館（中央区北一西13）で上演されるモーツァルトのオペラ「皇帝ティトの慈悲」（北海道二期会主催）。演出は、全国で数多くオペラを手がける大阪音大客員教授の岩田達宗が担当する。「18世紀末、レ

オポルト2世の皇帝即位式で平和への祈りを込めて初演された作品。日本での上演には恵まれなかったが、災害が増えて安全神話が壊れ、ロシアとウクライナで戦争が続く今、この作品をやる意義は大きい」と力を込める。  
（長道香）

## 「皇帝ティト」演出の岩田達宗

物語は実在した古代ローマ皇帝ティト（ティトゥス）の皇位継承を巡る暗殺未遂事件を軸に展開する。父から皇位を奪ったティトを憎みつつも皇妃の座を望むピテリリア、彼女に恋するセストラ、それぞれの思いが交錯する。

初演は、フランス革命の混乱期で自然災害も頻発した1791年。岩田は「このオペラのテーマは『許し』だが、その難しさも描いている。過ちを犯してしまう役の中にも正義があり、完璧な悪役がないのも特徴で、人間味があってリアルな作品」と紹介する。

国内での上演は少なく、岩田自身も初の挑戦。また、

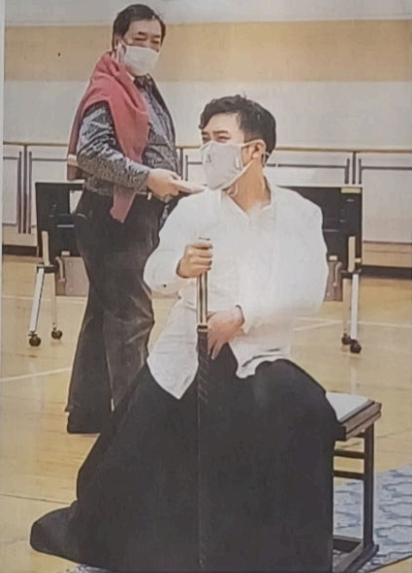
神話や歴史を題材にする「オペラ・セリア」という歌劇で、上演の準備に時間がかかる難しさもある。貴族のために作られたセリアは、現在よく上演される19世紀以降の興行オペラとは違つ。軟式テニスの選手が硬式テニスをするために訓練があるように、歌手たちの練習にも時間がかかる」と説明する。

岩田は「入念に準備する北海道二期会だからこそ、当時を追求した上演ができる。今回も4月から稽古をしている」と期待する。東京の舞台は、公演数が多いため稽古の日程を長くはとれない。同作品が2006年に東京で上演された時は

6・5313へ。大ホールで19日は午後6時20日は午後1時半開演。チケットは全席指定で、SS1万2千円・C4千円。道新プレイガイドなどで販売中。問い合わせは北海道二期会、電話090・6226



「制作スタッフもほとんどが北海道の人で優秀。特にヘアメイクにも注目してほしい」と話す岩田達宗



稽古をする荻原孝弥（右）と清水邦典（いずれも三川宗子撮影）